

天理市と西日本電信電話株式会社との 「ICTを活用したまちづくりに関する連携協定」締結について

天理市（市長：並河 健、以下、天理市）と西日本電信電話株式会社奈良支店（奈良支店長：奥野順也、以下、NTT西日本）は、2020年6月1日に「ICTを活用したまちづくりに関する連携協定（以下 連携協定）」を締結しました。

NTT西日本では「ソーシャル ICTパイオニア」をめざして、地域の抱える社会課題解決に向け、これまで培ってきた実績やICTを始めとする技術力を活かし、天理市が推進する「天理市第6次総合計画 ※1」及び「第2期天理市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ※2」の実現のため、ICTを利活用したまちづくり及び住民サービスの向上を図る取り組みを協働で推進してまいります。

※1 天理市の最上位計画である新たなまちづくり計画

※2 国の「まち・ひと・しごと創生法」を受けた天理市独自の取り組み

1. 連携協定の内容について

連携協定により取り組む概要は、以下のとおりです。実施方法やその他の詳細については、両者協議のうえ、進めてまいります。

- (1) 地域課題への対応、市民サービスの向上に関すること
- (2) 産業の振興に関すること
- (3) 地域社会の活性化に関すること

ICTを活用したまちづくりに関する連携協定のイメージ



2.今後の展開について

(1) 行政事務の効率化の取り組み（RPA実証実験 ※3）

本実証実験の結果を踏まえ、実装に向け支援を進めてまいります。

※3 Robotic Process Automation の略。コンピュータ上で行われる、単純作業に相当する業務を、人が操作しているのと同じように、自動化するツール。

(2) 健康・福祉の取り組み（認知機能計測エンジン実証実験）

ICTを活用し、認知症の前段階である軽度認知障害（MCI ※4）状態把握のため、認知機能を計測するエンジンの開発にむけ、天理市の活脳教室 ※5 の参加者の一部の方で実証を行っています。天理市のフィールドを利用し、認知機能計測エンジンの機能向上を図り、認知症予防の取り組みを進めてまいります。

※4 Mild Cognitive Impairment の略。健常な状態と認知症の中間にあたる。認知機能の低下が見られるものの日常生活に支障をきたさない範囲にとどまるため、周囲に異変を気づかれにくい。

※5 天理市における認知症予防プログラム「脳の健康教室」の名称

(3) 教育ICTの取り組み

ICTを活用した多様な学習機会の創出と、安心でより安全な教育情報基盤の提供に取り組めます。

【別紙1】 具体的な取り組み 参照

3.締結日

2020年6月1日（月）

※新型コロナウイルスの影響から書面により締結

<報道機関からのお問い合わせ先>
西日本電信電話株式会社 奈良支店
総務部 広報担当 坂本・辰己
TEL：0742-24-4464

*電話番号をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。

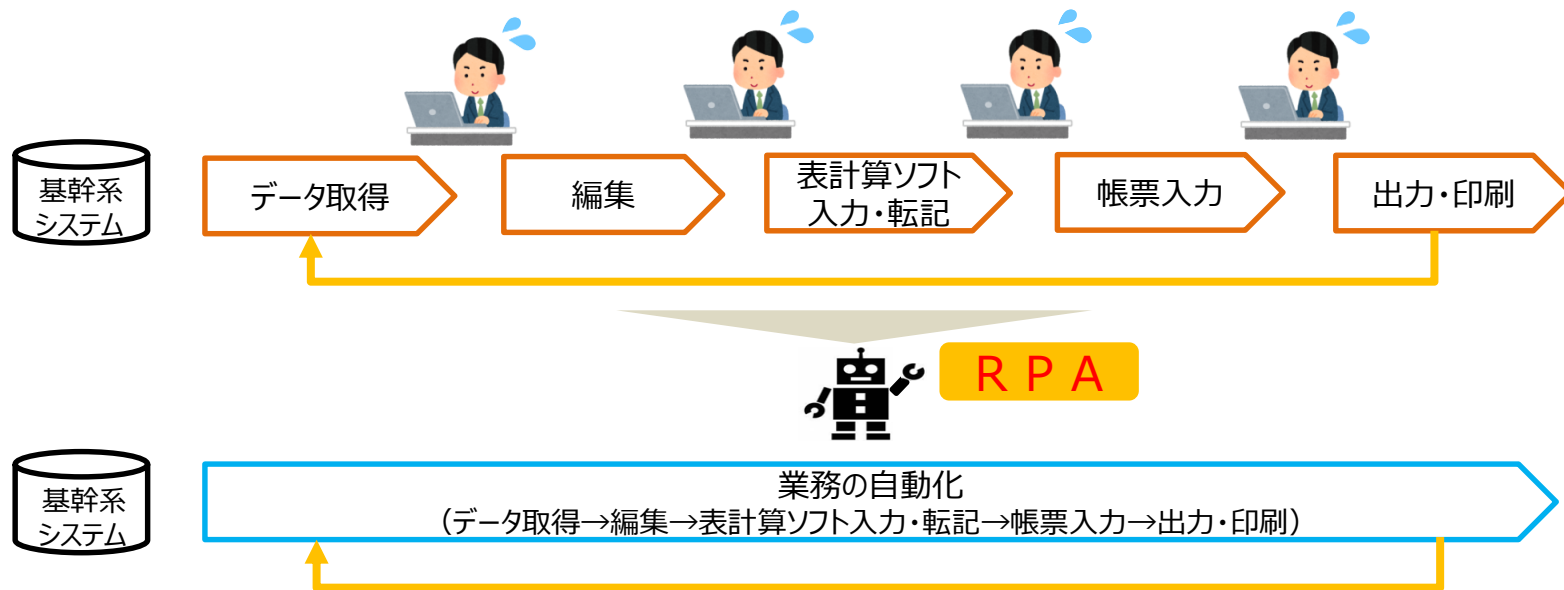
※ニュースリリースに記載している情報は、発表日時点のものです。現時点では、発表日時点での情報と異なる場合がありますので、予めご了承くださいとともに、ご注意をお願いいたします。

審査 20-360-1

【別紙 1】具体的な取り組み①

RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）※1

- ・行政サービスにおける、単純作業を自動化
- ・ヒューマンエラーを少なくできるため、業務の品質向上に貢献
- ・職員の皆さまは、ロボットやツールで対応できない「創造的な業務」に注力



主な支援内容

- 1.働き方改革に向けた、定型・反復作業の自動化、省力化
- 2.試行実施による効率性や正確性の効果検証
- 3.全庁展開に向けた課題の整理やノウハウの伝授
- 4.AI-OCR※2の試験的導入と効果検証
- 5.他自治体のRPA導入事例や効果の情報共有

※1 コンピューター上で行われる、単純作業に相当する業務を、人が操作しているのと同じように自動化するツール

※2 収集した大量の文字データから文字の特徴を学習し、高精度な文字認識を可能とするソリューション

認知機能計測エンジン 【実証実験】

- ・認知症予防にすでに取り組んでいる活脳教室※1参加者へ、教室終了後の自主的取り組みでも継続的に認知機能を測定する仕組みを提供
- ・認知機能の見える化による自主的取り組みへの参加意欲向上に寄与

ベッドの下にセンサーを設置



認知機能計測エンジン

1. 認知機能の見える化
2. 睡眠の見える化

※認知機能については開発中のため、本実証においては定期的なMMSEスクリーニング※2で代用



※イメージ

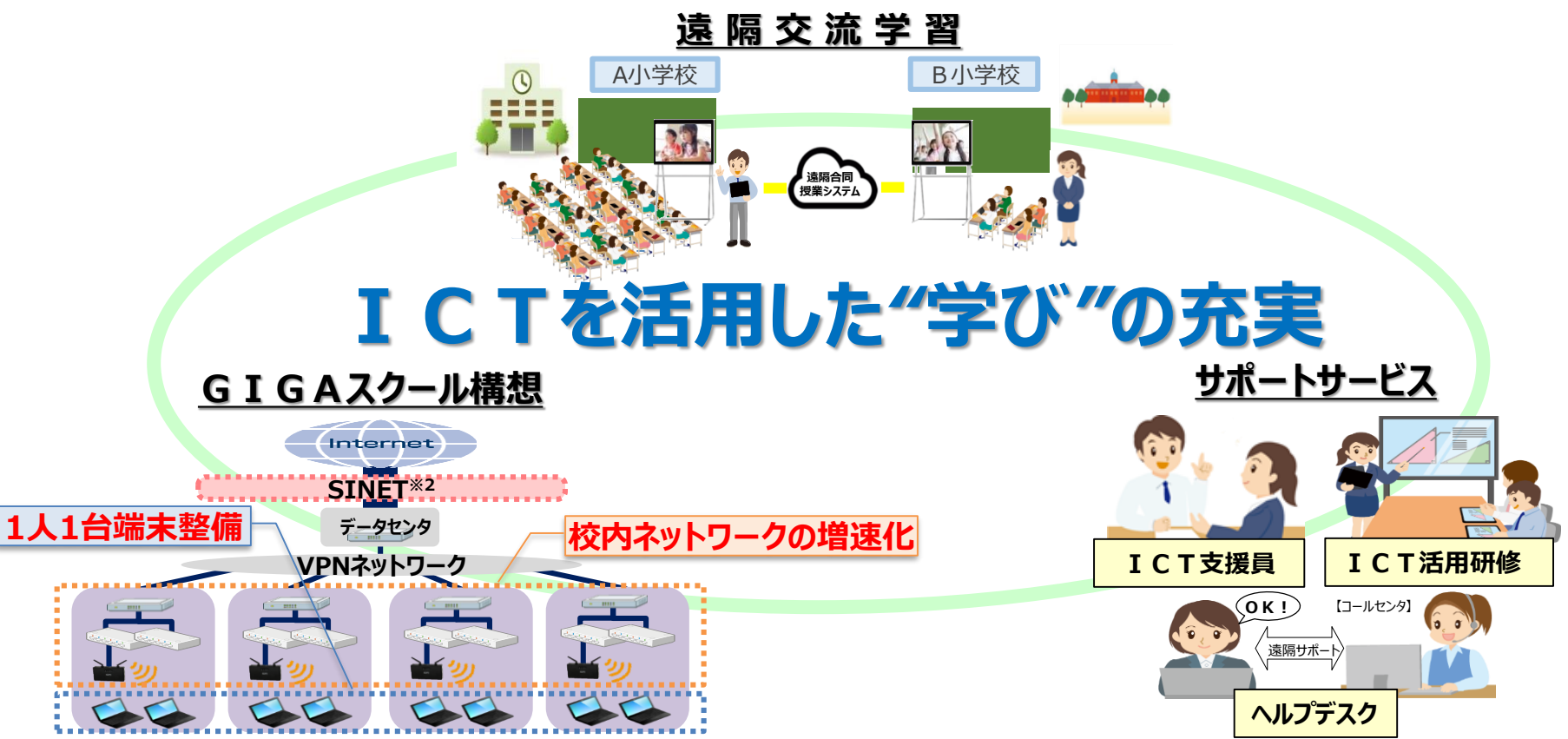
※1 天理市における認知症予防プログラム「脳の健康教室」の名称

※2 MMSE（ミニメンタルステート検査）認知症の診断に用いられる検査

【別紙 1】具体的な取り組み③

教育 I C T（遠隔授業・G I G Aスクール・サポートサービス 等）

- ・学びの充実にむけてN T T西日本がトータルサポート
- ・文科省「G I G Aスクール構想※1」実現に向けた自治体の取り組み支援
- ・先生が安心してI C Tを利用できるよう、I C T活用研修・ヘルプデスク
I C T支援員等ラインナップも充実を図る



※1 文科省により設定された、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けた構想。主な取り組みに校内LANの高速化や1人1台の学習用端末整備がある。
※2 大学、研究機関が利用する学術用高速ネットワーク。小中高での利用も予定されており、新たな教育機会の創出と、自治体間での機微情報の受け渡しなどが期待できる。